



『きりん』から生まれた詩集

大阪在住の山口雅代（美年子）さんは幼少期から独自の感受性と言語感覚で竹中郁ら選者を驚かせ、この詩集が生まれました。「わたし」は、5歳の時に彼女がつぶやいた言葉です。

わたし

お人ぎょうは
ひゃっかてんに
いくらでも うっているけど
わたしは どこにも
うってはいない
せかい中に
わたしは たったひとりだけ
それに かあちゃんは
わたしを しかる

詩集『ありとリボン』（2023年編集工房ノア刊）より

はじめお母さんが彼女の詩に手を加え投稿することがありましたが、それに気づいた選者の竹中郁は、わざわざ雅代さんの自宅を訪問し「親が手を加えて子ども独自の精神活動を損なわないように」と強く戒めました。全国配本の紙面上での厳しい評価はまさに「愛語」、教師も保護者も背筋が伸びたでしょう。子どもの人権を「ほんたう」に守るにはそれくらいの覚悟がいると思わされます。児童期から青年期に向かう子どもの身体感覚を抑圧せず、感受性や思考を自由に育む。それにおとなが育てられ、健全な人間社会が形づくられる。同質な場から離れた、多様な価値と出会うぶれジョブ®の場と重なります。

浮田要三作品と関係資料の展示

- ① 浮田要三作品の保存・展示
浮田氏のご親族から託された作品や遺品を展示します。
- ② 『具体美術協会』関係資料の保存・展示
『きりん』、『具体美術協会』関係資料を保存・展示します。
- ③ 児童詩誌『きりん』関係資料の保存・展示
猿澤恵子氏、小宮山量平氏提供の資料を保存・展示します。

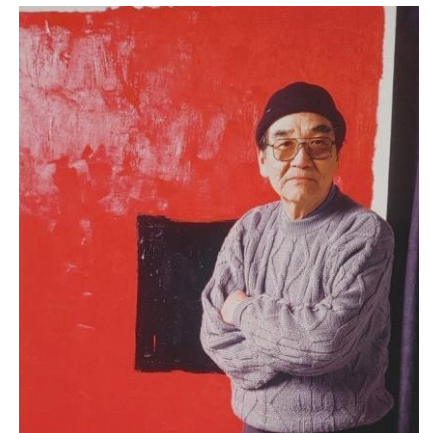
浮田要三と『きりん』の調査研究

- ① 「浮田要三と『きりん』の世界」展のアーカイブ
展覧会やイベントの様子を動画や活字により記録化します。
- ② 児童詩誌『きりん』の継続的研究
エディターズ・ミュージアム（上市市）所蔵による『きりん』を1巻から精読し、調査研究を深めます。
- ③ 「浮田要三と『きりん』」の発行
調査と研究の成果を刊行物として出版します。
- ④ 「きりん」を語る会・ワークショップの企画
浮田要三と『きりん』を自由に語る場を企画します。

～『きりん』にかかわりを持ち、高く評価した詩人・画家・思想家～
井上靖、竹中郁、坂本遼、足立巻一、吉原治良、嶋本昭三、鶴見俊輔など

子どもとおとなが対等に向き合う文化の普及啓発

- ① 『きりん』と『具体美術協会』との相互交流を教育の視点から再評価する研修を企画します。子どもを丸ごと受け止め、選別せずに理解する視点と方法を共に学びます。
- ② ホームページによる情報発信
今では読む機会の少ない『きりん』の内容を紹介する記事や情報を定期的に発信します。
- ③ 浮田要三と『きりん』の歴史を学びつつ、子どもが家庭に囲われず学校や地域社会で出会う大勢の大人の中で育つしくみ作り＝ぶれジョブ®の理念を発信します。



自作の前で（1995年頃 撮影：小橋慶三）